

教育原理
第1テーマ ガイダンス

日付:

0 「教育原理」の位置付け

1 「教育原理」の授業目標と学習の成果

(1) 授業目標

1. 教育の意義、目的および児童福祉等との関わり
2. 教育の思想と歴史的変遷、教育に関する基礎理論
3. 教育の制度
4. さまざまな教育実践
5. 現代日本の教育問題
6. 教育・保育に係る科目に通底する基礎用語、知識および概念

(2) 学習の成果

1. 教育の基礎原理および知識の修得
他の教育・保育に係る科目を理解するための基礎作り
2. 思考力、理解力、俯瞰的視野、一般・専門知識・関連諸領域の知識の統合調整力

I 保育者に求められる資質能力について

保育者……

※職業として、子どもの保育に関わる者に求められる専門的な資質能力とは何か？

→保護者と保育者の違いは何か？

・幼児教育・保育についての知識

・幼児教育・保育についての技術

・保育者にふさわしい人間性

Ⅱ 本科目と他の授業、および、保育者養成の関係について

→0-1-(2)学習の成果

※幼稚園教諭免許状および保育士資格の取得に必要な履修科目等(短大卒)

【幼稚園教諭免許状(2種)】

[一般教育科目]

・外国語、体育、社会学、文学、哲学等の基礎教養科目

[専門科目]

○教科及び教職に関する科目(31単位)

・教育原理・発達心理学

・保育内容

・音楽・図画工作

・教育実習等

○その他の専門科目

・教育史・教育制度等

最低修得単位数: 62 単位

【保育士資格】

[教養科目(8単位)]

・外国語、体育、社会学、文学、哲学等の基礎教養科目

[専門科目(60単位)]

・社会福祉・児童家庭福祉

・保育原理・保育の心理学

・教育原理・社会的養護

・子どもの保健・子どもの食と栄養

・保育内容・乳児保育

・音楽・図画工作

・保育実習等

最低修得単位数: 68 単位

出典: 中央教育審議会 初等中等教育分科会 総合施設に関する合同の検討会議第一回(2004年5月21日)配布資料6「幼稚園と保育所の比較について」、「児童福祉法施行規則の一部を改正する省令」

Ⅲ 半期の授業スケジュール、授業の進め方、成績評価の方法などについて

1 授業方法

- ・基本的に、レジュメ(プリント)とスライドを中心として講義する。
- ・毎回、すべてのレジュメを持参して受講する。
- ・レジュメの忘失には対応できない。欠席者は、3904 研究室前の箱からレジュメを受領する。

※教材・教科書

参考書: 松島鈞ほか監修『現代学校教育論』(日本文化科学社、2009年)

2 授業の構成(各回の授業テーマ)

第1テーマ ガイダンス

授業の目標と内容、進め方、構成、評価など

第2テーマ 現代日本における学校教育の概要

日本の学校制度、就学率・進学率、現代日本における教育問題

第3テーマ 教育とは何か(1)

教育の意味と目的①、教育という言葉の意味

第4テーマ 教育とは何か(2)

教育の意味と目的②、二つの教育観

第5テーマ 教育とは何か(3)

教育の意味と目的③、教育と社会的能力

第6テーマ 教育とは何か(4)

教育が行われる時空、3～6テーマのまとめ

第7テーマ 教育史概要(1)

西洋教育史の概要

第8テーマ 教育史概要(2)

日本教育史の概要

第9テーマ 教育法規と学校教育

教育法体系、教育に関する基本法規、教育の判例

第10テーマ 就学前教育(1)

就学前教育の歴史、幼保二元体制

第11テーマ 就学前教育(2)

幼保二元体制から幼保一元化

第12テーマ 教員の免許制度

教員の養成、免許と資格、採用、職務、研修

第13テーマ 教育課程と教育内容

教育課程と教育内容の意味、教科書検定制度

第14テーマ 障害と教育

障害の意味、特殊教育から特別支援教育へ

第15テーマ 教育の基礎原理と教育実践

講義全体の振り返りとまとめ、教育の基礎原理と教育実践の関係

3 授業の評価

(1) 評価の要点

- ・教育に関する基礎用語・基礎概念を理解しているか
- ・教育・保育に関わる基礎知識を習得しているか

(2) 評価の方法

- ・授業内に、講義の理解度を確認するための小テストを行う。
- ・期末試験は、原則として持ち込み不可とする。
- ・試験範囲は、授業で扱った内容すべてとする。
- ・論述式の問も出題する。→【資料1】

※成績評価の基準 学生便覧参照

※評価の割合 小テスト20% 期末試験80%

4 留意事項

- (1) 学期を通じて受講の際のルールを厳守する。私語、不正行為などに対しては厳しく対応する。
(退出・受講停止などを命ずる場合がある)
- (2) 事前にシラバスを読んだ上で授業に臨む。また、適宜復習する。
- (3) ノートを自分で作成する。(→【参考】)
- (4) 実習等により授業回数が 15 回に満たない場合は、補講を行う。
- (5) 出席要件…2/3以上の出席 (15分以上の遅刻は欠席扱い)
- (6) 座席を指定する

【資料1】 小テスト・定期試験の問題例

問. 教育が行われる時間や空間について、教育の定義に触れつつ、簡潔に説明せよ。

問. 日本の学校の教育課程について、解答欄に適切な語句を入れよ。

(①) は、(②) 省が告示する教育課程の基準である。①は、具体的には、小学校、中学校、中等教育学校、高等学校、(③) の各教科などにおいて教授される内容とその詳細等について定めている。1947 年に(④) として出された①は、教育課程の参考的な基準という位置づけであった。しかし、1958 年に小中学校について(⑤) されて以後、①が行政解釈上(⑥) 拘束力を持つとされるようになった。

なお、いわゆる教科書の適切性を確保するために、(⑦) 大臣は、民間の教科書発行者による図書に対して(⑧) を行う。これを、教科書(⑨) 制度という。

問. 授業内容を踏まえて、以下の文章が正しければ○、誤りであれば、誤りである部分に下線を引き、適切な言葉を解答欄に記入しなさい(簡潔な記述でよい)。

- ・教育は、子どもに良い影響のみを与える営みである。
- ・教育は、小学校に入学後、教師により開始される活動のみを意味する。
- ・教育は、常に子どもを中心に行われるべきで、おとなが中心になる教育は常に望ましくない。
- ・教育は、目的に応じて様々な方法を取り得るため、唯一で最善の教育方法は存在しない。
- ・乳幼児は無力であり、外部の支援なくして自ら成長発達することはできない。
- ・「おとな中心の教育観」とは、おとなが子どもの自発性や主体性を導く考え方である。
- ・子どもの個性や興味等を尊重しその自然な発達を支援する教育観は、古代から広く確認できる。
- ・「ルールやマナーを教え込む」教育観の芽生えは、18 世紀の産業革命期に遡ることができる。
- ・エラスムスは、生涯学習の構想を有し、子を持つ前の保護者に対する教育の重要性を説いた。
- ・ルソーは、子どもの自然な発達を最重要視し、それへの積極的なはたらきかけを主張した。